

発行所

札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部同窓会  
TEL&FAX (011) 706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
http://hokudai-med-dousou.com

編集人 田中 伸哉  
発行人 浅香 正博



CONTENTS

- (1) 北大総長就任ご挨拶……寶金 清博
- (2) 新しい年を迎えて……浅香 正博  
・年頭のご挨拶……吉岡 充弘  
・教授就任のご挨拶……矢部 一郎
- (3) 秋の褒章、叙勲  
小柳 知彦 田代 邦雄  
宮脇 寛海 山下 幸紀  
・新世紀の医学に向けて(41)  
……………高橋 誠
- (4) ズームアップ⑮……………豊嶋 崇徳  
・理事会・評議員会報告
- (5) 北海道大学医学部創立100周年記念  
事業募金へのご協力をお願い
- (6) 座談会 “新型コロナウイルスの  
影響で学生生活はどう変わったか”
- (7) 告知板  
・事務局からお知らせ  
・フラテ107号発行のお知らせ
- (8) 新刊書紹介  
・過年度会費が2年を超える会費  
未納者と会員名簿の発送について  
・令和2年度同窓会員名簿について  
・北海道医学会からお知らせ  
・総会、卒業生歓迎会のご案内  
・同窓会費の納入は口座振替で  
・同窓会費納入のお願い  
・ご逝去者  
・一面の写真説明  
・編集後記

北大総長就任ご挨拶

ほう きん きよ ひろ  
寶金 清博(55期)

2020年10月1日、萩生田文部科学大臣の任命を受け、第20代の北海道大学総長を拝命いたしました。この間、多くのご支援とご助言をくださった北大医学部関係者、同窓会の皆様に対して、改めて御礼申し上げます。

150年になろうとする本学の長い歴史の中で、医学系の教員が総長に就任するのは、私を含めて3人目となります。医学部が100年になる歴史を考えますと、決して多い数ではないように思います。加えて、臨床医が総長になることは、150年の歴史において、初めてのこととなります。これは、大変な名誉でもありますが、改めて、責任の重さを痛感しております。

私は1973年に札幌南高校を卒業した後、1979年に本学医学部を卒業し、都留美都雄教授が主宰されていた脳神経外科教室に入局いたしました。その後、札幌医科大学での教授職を経て、2010年本学に帰学、本学脳神経外科教授を拝命し、その後、2013年から3年2期、計6年間、北海道大学病院の病院長を務めさせていただきました。病院長の最初の4年間は本学副理事、最後の2年間は本学副学長という大学執行部の一員として、大学運

営にも関わることができました。

こうした貴重な経験がなければ、日本でも有数の総合研究大学である北海道大学の舵取りをすることは全く不可能であると思います。このチャンスを与えて下さった北大医学部、医学研究院、北海道大学病院の皆様には心から感謝しております。さらに、脳神経外科医として一隅を照らすべく、指導して下さいました阿部弘名誉教授、外科医としての技術を伝えて下さった上山博康先生、そして、研究者としての厳しさを教えて下さった故中田力教授(米国カリフォルニア大学)には、この場を借りて感謝申し上げます。

総長選考の結果が出たのが9月3日で、就任が10月1日であったため、喫緊の継続案件の引継ぎが精一杯で、大学の細かな懸案事項の把握と準備に必要な助走期間を得ることができませんでした。しかし、本学は2年余りの総長不在、解任という長いブランクを経ており、北大の「再生」と「発展」を目指すには、一刻の猶予もないと覚悟を決め、新執行部を立ち上げ、10月1日から仕事を開始しております。

大学は、社会の重要な構成員であり、現在もその意義はますます大きくなって

おります。その本質は、初等・中等教育から継続する「高等教育」と「研究」にあります。しかし、現在の大学は、社会の一員として、産学官連携、地域連携、起業など、従来にはなかった役割を求められています。この新しい役割を果たすためには、力強い経営力が必須となります。今回、私に求められているのは、この経営力の創発であると思います。

具体的には、①これまでとは次元の異なる強力な産学官連携、②経営的収入(ベンチャーキャピタルの設立、不動産収入の増加、コンサルティング会社の設立)、そして、③起業力のアップが求められています。どれも、これまで経験したことのないマーケティング戦略であり、大変にハードルの高いものです。

しかし、本学の次世代を切り拓くためには、私の在任期間中に是が非でも、これらの新しい経営戦略を軌道に乗せなければなりません。すでに、他の主要な大学の中には、この領域で大きく先行している大学もあります。もう、一刻の猶予もない状況で、一日でも早く行動しなければなりません。10月1日の就任はその意味では、少しも拙速ではなかったと思っております。

唯一、想定外で残念であったのは、総長職においては、臨床医、脳外科医としての仕事は、いったん、全て断念せざるを得ないということです。患者さんを診ない生活がすでに一か月となります。これまで、患者さんを診ることで、私自身が励まされ、エネルギーをいただきました。40年余りの脳外科医としての生活から離れることは、心身のバランスを保つ上で、想像以上に大変なことです。ただ、「教育」「研究」「診療」を行う総合研究大学、北海道大学の発展に尽くすことで、患者さんに恩返しができると思っています。

今後も、北大医学部の皆様には、お世話になります。どうか、北大の歴史上、初めての臨床医の総長をご支援いただけますように、お願い申し上げます。

令和2年11月9日



## 新しい年を迎えて

北海道大学医学部  
同窓会会長

あさ か まさ ひろ  
浅香 正博(48期)

新年おめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延のため、世界中が大混乱に陥り、国際交流は完全にストップとなり、ほとんどの学会は国内外を問わず中止となってしまいました。さらには東京オリンピックの開催も延期になり、同窓会員が楽しみにしていた北大構内を走り抜けるマラソン選手を観察することも1年間待つことになりました。顧みると北海道大学医学部創立100周年行事が2019年に滞りなく行われたことはある意味奇跡的なことであり、1年ずれていたらどうなっていたか考えると寒気を感じます。北海道大学医学部では昨年度の卒業式と入学式が中止になり、授業も対面ではなく、オンライン授業に切り替えられました。初めての試みで苦勞した教員も多いと思われませんが、できる限りの努力をしてくれたため、概ね順調に行われております。教員も大変でしたが、最も影響を受けたのは、医学部の新入生と思われま。せつかく、合格したのに登校することが出来ず、楽しみにしていた授業やクラブ活動が出来ない状況が長く続いたのです。数ヶ月で収束すると思われておりましたが、11月中旬には、北海道

で700名を超える新規感染者が出ており、オンライン授業はまだ続いております。

新しい年が始まる頃までに新型コロナウイルス感染が世界中で落ち着いてくれることを望んでおります。

医学部創立100周年行事を締めくくる素晴らしいニュースとして、北海道大学第20代総長として55期の實金清博先生が選出されたことがあげられます。医学から選出された北海道大学学長は、これまで今裕先生と廣重力先生の二人しかおられません。特に、臨床医学から選ばれたのは實金先生が初めてであり、同窓会会員から多大の期待が寄せられています。今回は前任者が不祥事で退任され、1年以上も総長不在が続いた後ですので、迅速な対応が望まれています。實金先生には大変な責任とプレッシャーがのしかかってくると思われまますが、是非とも医学部出身総長として素晴らしい仕事をされることを心から望んでおります。

北海道大学医学部同窓会会員の皆様方のご健康並びにご多幸を心からお祈りし、年頭のご挨拶といたします。



## 年頭のご挨拶

医学部長・医学研究院長

よし おか みつ ひろ  
吉岡 充弘(60期)

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては新年をつつがなくお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は国難ともいえる新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「学びの庭」にもこれまで経験のない対応を余儀なくされてきました。4月から手探りで始めた「リモート講義」や対面で実施してきた基礎科目実習の延期等、学生のみならず教職員にも、戸惑いを覚えながらの対応でした。なかでも自宅やアパートの自室にリモート講義に対応した通信設備が整っていない学生やアルバイトが制限される中で経済的に困窮する学生に対して、同窓会から150万円の緊急支援を頂き、それを原資として98名の医学部生及び大学院生に支援金を支給させていただきました。支給を受けた学生から感謝の言葉が寄せられており、この場をお借りして同窓会にお礼を申し上げます。

そのような中で、更に嬉しいニュースがありました。本学医学部55期生の實金清博氏が北海道大学第20代総長に就任されたことです。また、本学総長の解任手続きのさなか、筆頭理事であった本学医学部56期生で前医学研究科長

の笠原正典氏がその総長職務をつつがなく立派に代行されたことも本学医学部の名誉ある歴史の1ページに刻まれました。今後、實金清博新総長におかれましては、総長が解任されるという前代未聞の事態を如何に收拾し、来る2026年本学創基150年に向け、「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」のスローガンを如何に具現化していくのか、その手腕に大いに期待するとともに、医学部・医学研究院としても最大限の支援を惜しまぬつもりです。

これまで同窓会のご支援を受け、医学部創立百周年記念事業を進めてまいりました。この記念事業もこの3月をもって完結いたします。百年記念館建設とともに記念事業のもう一つの柱である「教育研究基金」の創設については、大学運営の基盤である運営費交付金の減額が続く中、我々の使命である「医学・医療の発展に貢献するリーダーの育成」と「新たな知の創造」に資するものと位置付けており、この4月の創設へ向けて準備を進めております。この事業完結に向けて皆様の更なるご支援をお願いし、また、新年が皆様にとりましてすばらしい年となりますことをお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

## 教授就任のご挨拶



神経内科学教室

やべ いちろう  
矢部 一郎  
(67期)

この度、令和2年12月1日付で北海道大学大学院医学研究院神経病態学講座神経内科学教室教授を拝命致しました。

当教室は脳神経外科初代教授 都留美津雄先生のご高配のもと、1973年に脳神経外科内に後の神経内科初代教授 田代邦雄先生を中心に神経内科診療班が創設されたことに端を発します。その後、脳神経外科二代教授阿部弘先生はじめ諸先生からの支援を得て、1987年に脳神経外科から分離独立致しました。そして教室創設の後、田代邦雄先生、二代教授佐々木秀直先生のもと発展して参りました。奇しくも本168号では我が師である田代邦雄先生の叙勲受章と脳神経外科四代教授 實金清博先生の総長就任の記事が掲載される号であり、同じ紙面に私の就任挨拶が掲載されることを、本当に嬉しく思っております。また、北大神経内科同門および卒業同期である北大67期の皆さんが今回の就

任をととも喜んでくれていることにも、大きな喜びを感じております。

私の教室運営基本方針は、佐々木秀直先生が提唱された現在の教室基本理念である、北海道発の独創的な医学研究の実施、多彩な疾患に対応でき患者の人生に寄り添える専門医の育成、academic interestを持った専門医の育成、新規治療法に積極的に取り組む体制の整備、地域連携による診療協力と卒後研修体制の構築、のそれぞれを実践することにあります。これらを実現すべく、研究、診療、教育の充実を進展させて参ります。

研究については、患者から学び、患者に還元する研究を主軸とし、診療で目指す目標と緊密に関連した研究を推進していきたいと考えます。現在進捗中の多系統萎縮症レジストリー研究や脊髄小脳失調症1型遺伝子治療開発研究をはじめ、たくさんの学内外の研究者と共同研究も実施してきました。これらを今後も発展させることはもちろん、今まで共同研究を行っていなかった領域の研究者とも、積極的に連携を図っていきたくと考えます。

診療については、神経内科は神経領

域と内科領域の両面を兼ね備えた診療科として、多彩な疾患の診療を継続していきます。脳血管障害などの急性疾患と、認知症を含む変性疾患を中心とする慢性疾患の両者を高水準で診療し、北海道の「最後の砦」としての医療を適切に提供し、地域医療機関との連携や人材の育成を通して地域医療レベルの向上に寄与して参ります。また、私は北大病院臨床遺伝子診療部部長として遺伝診療に深く関与してきました。認知症や神経難病領域では、複数の発症素因遺伝子が見出されつつあり、治療薬開発研究も進捗しています。近い将来、神経内科領域にもゲノム医療を基盤とした精密医療や先制医療が応用されることが予想されます。私は、今までの経験を生かして、この領域の発展に積極的に貢献したいと考えます。

教育については、今や認知症、頭痛、てんかん、脳血管障害など日本国民の大多数が神経疾患に罹患する時代ですので、将来どの診療科を専攻するにしても、最低限の神経診察の素養が必要です。卒前教育では神経診察を含め神経学の基礎を丁寧に教えるように配慮します。卒後教育では診療を通じて教

育することに加え、専門研修も含めた研修プログラムを提供し、かつ多くの症例の診療を実践できるよう関連病院での研修も組み合わせ、神経内科専門医の養成に相応しい教育プログラムを提供します。また、その過程において大学院教育の充実もはかり、研究指向を持った神経内科医の育成を目指します。

私は教室構成員とこのような理念を共有し、内科領域と神経領域の両方の側面を持つ教室として学内外において連携しながら教室運営をしていきたいと考えます。このような活動を通して母校である北海道大学の発展に貢献し、日本、そして世界の医療に貢献することを目指したいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞ宜しく御願ひ申し上げます。

## 秋の褒章、叙勲

### 「瑞宝中綬章」受章



教育研究功労  
北海道大学  
名誉教授  
小柳 知彦  
(40期)

「瑞宝中綬章の榮譽に浴して」

昭和39年卒業医学部40期です。御存知の方は少なくなつたかも知れませんが、当時は未だ教授を頂点とする医局制度、学位制度が真っ盛りの時代で基礎研究にて学位取得が臨床修練より優先される時代でした。今でこそ臨床修練が充実した我が国ですが、当時は米国がより優れていたため卒業後修練の場を米国に求めました。渡航費用は日米

教育委員会通称フルブライト奨学金制度にお世話になりました。シカゴ市マイケルリース病院にて外科レジデントを2年間修めた後、念願の泌尿器科専門トレーニングはアンアーバーのミシガン大学で修める事となりました。ここでは生涯の恩師とも云える2人の先生に出会う事が出来ました。ネスビット、ラビデス両先生からは単に泌尿器科学の知識技術を教わっただけでなく医学研究への取り組み方、考え方、一人の人間としての生き方など多くの事を学ばせていただいて昭和45年母校へ戻りました。

以後33年の長きに亘りアカデミックユロロジストとして我が国の臨床、研究の発展と次世代の人材育成に尽力し

てきました。多くの協同研究者にもめぐまれて数多くの業績を上げる事が出来ました。詳しくは平成15年退職時最終講義としてまとめたフラテ誌を参照して下さい。大学院大学へ改組される際には腎泌尿器外科学分野とし外科としてのより一層のアイデンティティーの確立、学術発表、研究交流等を通じて国際化、患者本位、臨床重視を大きな柱として歩みました。基礎研究の重要性は充分認識しつつもその素養が無い事を我々外科医は何も恥じる事が無い事、外科臨床は体力的には勿論論的にも基礎研究同様骨の折れる努力を要する分野である事、今日の医学の発展進歩には外科の貢献が少なからず有る事を教わった米国での臨床に裏打ちを

されたものです。

これ等に対する評価が今回の叙勲とすれば私のこれまでの生き方が間違っていなかった事を国が認めてくれたわけでもありこれ程嬉しい事はありません。医学部卒業までの卒業教育、米国内での卒業教育と30才までの自身の教育は全て公的資金・国民の税金にサポートされたものでした。公的機関である母校へ戻り教育、研究、診療を通じて国民に寄与する事は当然の責務と考え実行して来たわけですからその評価でもあるとすればなおさらとその感を強くしている次第です。ありがとうございました。

令和2年11月3日

### 「瑞宝中綬章」受章



教育研究功労  
北海道大学  
名誉教授  
田代 邦雄  
(40期)

「瑞宝中綬章を受章して」

このたびは、瑞宝中綬章の叙勲の栄を賜り、誠に光榮に存じます。これもひとえに、ご関係の皆様のおかげと、感謝しております。

私は、昭和33年4月に北大に入学、同39年に卒業後、1年間は横須賀米海軍病院でのインターン、同42年7月から同47年6月までの5年間は米国ケース・ウェスタン・リザーブ大学神経内科レジ

デントおよびセントルイス大学神経病理レジデントとしての、計6年間以外は約40年にわたり、この伝統あるエルムの学園でござらせていただきました。

そのなかで、学生時代に神経に興味を持ち、自分の適性から、神経内科を志すようになり、当時の北大脳神経外科教授都留美都雄先生のご厚意で、インターン修了後に2年間の北大脳神経外科での研修の後、5年間の米国留学で神経内科を学ぶことができました。都留先生は、米国留学で神経学も学ばれたパイオニアの一人で、神経内科の必要性を強調され、その後も私達の神経内科グループを優しく育てて下さいました。

米国留学からの帰国後は、北大脳神経外科で神経内科診療班として活動さ

せていただき、当時の阿部弘教授や関係各位のご尽力により、診療科として独立することができました。そして、診療班として14年、診療科として8年の計22年を経て、仲間と苦楽をともに努力した実績を認められ、平成7年に医学部神経内科学講座に昇格しました。このことは、医学部、病院、事務部、北大本部をはじめご関係の皆様のご尽力なしでは到底達成できなかったことでした。診療科および講座として独立後は、日本のみならず世界にも通じる教育、診療、研究体制の確立、専門医育成、神経難病への対策、社会貢献などに努めてきました。

このたびの受章にあたっては、これまでやってきたことが認められた喜び

もありましたが、たくさんのお祝いのお言葉や、祝電、お花などを頂戴して、多くの方に喜んでいただけたことを大変嬉しく思うと同時に、多くの皆様のおかげでこのようなことが実現出来たのだと実感する機会ともなりました。平成14年5月の第43回日本神経学会総会における私の会長講演「時・場所・人と神経学」は、私のこれまでの歩みの総決算でもありましたが、時に恵まれ(時)、最適な研究の場を与えられ(場所)、そして最高の人々と巡り会えたこと(人)に、あらためて感謝している次第です。

今後の北大神経内科、医学部、北大のさらなる発展を期待しております。

(代筆 田代 淳 (74期))

### 「瑞宝双光章」受章



学校保健功労  
学校医  
宮脇 寛海  
(40期)

「あるLandarztのはなし」

40期卒業の宮脇と申します。恵庭市でのんびりと余生を過ごしています。さる11月3日の新聞に叙勲の記事が載りました。私の名前も掲載されたので、びっくり仰天しました。叙勲の理由は、小学校の校医を長年続けたということであり、恵庭市の市長様、教育委員

会の皆様には、誠に有難い配慮を頂きました。他に何の取り柄もない田舎医者ですが、人生の終点近くになると、こう言うこともあるのかと感動しました。

私は思い返しますと、終戦の年1945年に小学校に入学、翌年、満州(中国東北部)から引き揚げ、北海道内の小学校中学校をあちらこちらと転校を繰り返して、空知地方の滝川高校を卒業して、1浪して北大にやっと入学できました。学業についてゆくのもやっとで、卒業、インターン、国家試験をへて、整形外科の医局に入りました。

割と早くに1973年8月、恵庭市にて整形外科クリニックを開業しました。全

く無鉄砲、行き当たりばったりですが、地域の住民に支えられ、地元の医師会の先輩、同輩等に助けられて何とかクリニックを続けて来られました。去年、46年の開業生活を引退しました。

現在は、週に2回、老人ホームの回診、自衛隊の医務室に1回行っております。恵庭ライオンズクラブにも長年お世話になっております。自分はslow-wittedですが、この年になってやっと(足るを知る)のが幸福の要だと思ふようになりました。

現在は難聴で会話も理解が遅く、目がかすみます。妻と時には町内を散歩したり、社交ダンス教室に通ったり、

英会話教室に行ったりしていますが、進歩より退歩の方が勝っております。自宅(懐かしのメロデイ)の本を開いて歌ったりしますが、途中で歌詞とメロデイが合わなくなって大笑いになります。日に日に幼児期に戻って行きつつあります。

### 「瑞宝中綬章」受章

保健衛生功労  
元北海道  
がんセンター院長

山下 幸紀  
(42期)

## 新世紀の医学に向けて (41)

### 医学教育改革と医学教育分野別認証について

生命科学と科学技術の進歩により、近年、医学知識は爆発的な増加を続け、医療技術も急速に高度化が進んでいます。さらに、医学・医療を取り巻く社会の変化に伴い、社会のニーズも多様化しており、それに対応できる医師を養成すべく、各医育機関で医学教育改革が進められています。

医学教育モデル・コア・カリキュラム  
医学教育の抜本的改善を目的に、平成13年3月に文部科学省から公表された「医学教育モデル・コア・カリキュラム(以下、コアカリ)」は、全ての医学生が履修すべきコアとなる基本的な学習内容を提示したもので、それまで明示されていなかった医師として必要な資

質が記されました。また、学習すべき医学的知識の内容が精選された一方で、診療能力を身につけるための学習として、診療の基本や臨床実習が明記されました。特に臨床実習の方法として、学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら、医師としての基本的な能力を実践的に修得

医学教育・国際交流  
推進センター  
高橋 誠 (会員2)



するという診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ; CC)が推奨されました。コアカリは、その後、平成19年12月、平成23年3月、平成29年3月と改訂され現在に至っています。

### 共用試験CBT・OSCE

診療参加型臨床実習に進んで良いか、

医学生への知識と技能・態度を評価する試験として、共用試験（CBTと臨床実習前OSCE）が開発され、平成17年から正式実施されています。これに合格すると、全国医学部長病院長会議が発行するStudent Doctor証が提供され、臨床実習で診療に参加することができるようになります。現時点では法的裏付けのない“仮免”ですが、今年5月に医道審議会医師分科会から共用試験を公的化する報告書が出され、今後法的裏付けのある“仮免”になる見込みです。

さらに、卒業し臨床研修に進んで良いか医学生の技能・態度を評価する試験として、診療参加型臨床実習後OSCE（Post-CC OSCE）が開発され、平成30年からトライアルとして実施されています（今年から全国で正式実施の予定でしたが、コロナ禍で本学を含め約1/3の大学で正式実施できませんでした）。

**医学教育分野別認証（国際認証）**

さらに、医学教育改革を推し進める原動力として、医学教育分野別認証評価があります。

2010年9月に、米国の外国医学部卒業生教育委員会ECFMGは、「2023年以降、米国の医学教育連絡委員会（LCME）あるいは世界医学教育連盟（WFME）の基準、または、相当する国際基準に認定されていない医学部からの卒業生にECFMGの受験資格を認めない」との声明を発表しました。この声明を受けて、国際標準の医学教育認証評価制度を本邦に導入するため、2015年12月に全国医学部長病院長会議を中心に、日本医師会、日本医学会連合、日本医学教育学会などの諸団体の協力の下、日本医学教育評価機構（JACME）が設立されました。2017年3月にJACMEはWFMEの認証を受け、以降、JACMEの認定を受けた医学部の卒業生がECFMG申請資格を獲得

できることとなりました。

では、医学教育の国際基準とはどのようなものでしょうか。JACMEが審査の際に医学教育の分野別質保証の基準としているのは、「医学教育分野別評価基準日本版 WFMEグローバルスタンダード 2015年版準拠」で、最新版は Ver.2.33（2020年11月2日）です。評価基準は、1) 使命と学修成果、2) 教育プログラム、3) 学生の評価、4) 学生、5) 教員、6) 教育資源、7) プログラム評価、8) 統括および管理運営、9) 継続的改良の9つの領域からなっており、大学として何を目指し、そのために何をどのように教えているか、学生の学修成果を適切に評価しているか、必要な学生・教員・教育資源が適切に採用・整備されているか、教育プログラムが適切に評価され改良に向かっているか、組織が適切に管理運営されているか、といった観点で、基本的な水準（…なければ

ならない）が106項目、質的向上のための水準（…すべきである）が90項目定められています。

医学教育分野別評価を受審する際は、これらの水準に対して、自己点検評価書を作成しJACMEに提出することが求められます。自己点検は、まず、A.現状を説明し、B.優れた点および改善すべき点を分析し、C.現状で優れた点を伸ばすために行っている活動と改善すべき点に対する対応を述べ、D.優れた点および改善すべき点をふまえた中長期的な行動計画を示すことが求められます。

本学では、平成25年度入学者から新カリキュラムに移行し、教育改革を進めてきました。いよいよ、令和3年度に医学教育分野別評価の受審を予定しており、それに向けて準備を進めています。

**ズームアップ⑬ 感染拡大抑制のカギを握る唾液PCR検査法の確立**

北海道大学医学研究院 血液内科教授 北海道大学病院検査輸血部長

てしま たかのり  
豊嶋 崇徳(会員2)



**■きっかけ**

北海道は、日本でもっとも早く新型コロナウイルス感染拡大が起こった自治体だ。2020年2月の札幌雪祭後あたりから感染者が発生し、2月下旬には北海道は全国に先駆け緊急事態宣言を発した。しかし、4月に入り患者数は再び上昇。この頃、一人のコロナ疑い患者が受診してきた。直ちに決められた手順に沿って、スワブと呼ばれる綿棒で鼻咽頭をぬぐい、同時に痰を採取した。しかし、採取されたのは唾液であった。両検体をPCR検査した結果、スワブでは陰性であったが、何と「唾液」で陽性反応が出た。この結果に驚き、文献検索してみると、コロナはアンジオテンシン変換酵素(ACE2)受容体を介して感染し、口腔内の細胞がこのACE2受容体を発現することが判明していた。なるほど、会話やカラオケで感染する、味覚異常といったコロナ特有の症状もよく説明がつき、そうであれば唾液で診断できるはずだと思いついた。さっそく、海外からも少数例ではあるが唾液でもPCR診断できると論文が出始めていた。唾液検査が可能となれば、スワブ採取に伴う医療従事者の感染リスクをなくし、PCR検査拡充のきっかけになるはずだ。

**■北大で研究開始**

ゴールデンウィークに入った4月25日、唾液とスワブを比較する臨床研究を北大で開始した。札幌では入院患者が急増し、医療崩壊の危機が現実味を帯びてきた時期だった。

ロコミで研究が伝わり、早速5月6日に、日本テレビ「報道1930」に出演した。その翌朝、日本医師会横倉義武会長（当時）が、加藤厚労大臣に唾液検査の実用化を要請した。早速、厚労省よりコンタクトがあった。国を動かすには論文化が必要だが、平時のように査読を経て数か月でアクセプトではとても即戦的な対応ができない。そこでmedRxivという査読前論文を掲載するpreprint serverに5月19日に論文を公開、その後査読を経たうえで医学雑誌に受理された。PCR陽性10例、陰性66例におけるスワブと唾液の診断一致率は97.4%であった。6月2日、唾液PCR検査が認可された。

**■無症状者を対象にしたスクリーニング検査の研究開始**

感染爆発防止には、濃厚接触者など無症状者に対する迅速なスクリーニングが鍵になる。しかし、無症状者の唾液検査についてはエビデンスに乏しかった。そこで6月12日、国からの支援を受け、羽田・関空の国際空港検疫と保健所検査を対象

にした大規模研究を新たに開始した。無症状者2000例弱で鼻咽頭スワブと唾液を比較し、感度、特異度ともにほぼ一致し、採取者のリスク等考慮し、唾液検査が第一選択になりうる結論が得られ、この結果を基に7月17日、無症状者での唾液検査が認可された。なおこの研究によってPCR検査の感度は従来言われていた70%よりも遥かに高い80-90%程度であることも判明し、米国の感染症学会のジャーナルに掲載された<sup>2</sup>。この結果を基に、わが国の空港検疫は鼻咽頭スワブから全面的に唾液に切り替えられ、大幅に入国までの待ち時間が短縮された。またこの成果は多くの国内外のメディアに取り上げられ、フランスでも唾液検査が認可された。

北大病院では、安心して医療をしたいという医療者の強いニーズに応え、全国に先駆けて5月7日より、全身麻酔下手術や透析前の唾液による新型コロナスクリーニング検査を開始した。朝、唾液を提出してもらい、夕方には結果が判明する。医療者からも患者さんからも安心してできると好評である。このシステムも唾液検査だからこそ実現が可能となった。

**■唾液から始まる検査の進歩**

我々は検査時間の短縮にも産学共同研究によって取り組んだ。その成果として

時間短縮PCR検査<sup>3</sup>、LAMP検査、化学発光酵素免疫測定法を用いた抗原定量検査のすべてに唾液が使用できることを明らかにし、これらが認可された。これらの結果をもって、空港入国検疫では従来のPCR検査から、より簡便で短時間で唾唾液抗原定量検査法に変わった。

**■おわりに**

4月に唾液にウイルスがいることにたまたま気づき、研究を始めてわずか1-2か月で国を動かし、わが国のコロナ対策に大きな進歩をもたらした。患者から学ぶ「気づき」とその考察、そして、医療崩壊が目前に迫り、強い使命感がこのスピードの源であった。最後に、この無茶なスピード感についてきてくれた北大検査輸血部のスタッフ、連休中もひたすら唾液採取をしてくれた呼吸器内科COVIDチーム、フィールドワークを担ってくれた北大関係者や全国の医療者に深謝したい。

文献

1. Iwasaki S, Fujisawa S, Nakakubo S, et al. Comparison of SARS-CoV-2 detection in nasopharyngeal swab and saliva. J Infect 2020;81:e145-e7.
2. Yokota I, Shane PY, Okada K, et al. Mass screening of asymptomatic persons for SARS-CoV-2 using saliva. Clin Infect Dis 2020.
3. Fukumoto T, Iwasaki S, Fujisawa S, et al. Efficacy of a novel SARS-CoV-2 detection kit without RNA extraction and purification. Int J Infect Dis 2020;98:16-7.

**理事会・評議員会報告**

**理事会**  
日 時：令和2年11月10日（火）  
午後6時30分から午後7時05分  
場 所：医学研究院 百年記念館  
大会議室  
出 席：9名  
（会長、副会長2名、理事6名）  
同 席：監事1名、評議員会議長、  
副議長

陪 席：吉岡医学部長  
**評議員会**  
日 時：令和2年11月10日（火）  
午後7時30分から午後8時00分  
場 所：医学研究院 百年記念館  
大会議室  
出 席：52名  
（出席者9名、委任状提出者43名）

同 席：会長、副会長2名、理事6名、  
監事1名  
陪 席：吉岡医学部長

**【協議事項】**

1. 令和元年度会計収支決算について  
会計収支状況及び特別会計預金状況について説明後、審議了承されました。

2. 令和元年度会計監査について  
会計監査結果について説明後、審議了承されました。
3. その他  
(1) 医学部学生への緊急支援に係る協力について  
新型コロナウイルス感染症の影響により、授業形態がオンライン授業で実施さ

れ、医学部では一部の学生に情報環境整備経費の一部を支援することに伴い、同窓会からも支援金の一部負担を緊急的に行ったことが報告された。

また、コロナ渦における医学部の学生に対する様々な取り組みについて報告があった。

**【報告事項】**

1. 評議員、予備評議員の一部交代について

令和2、3年度の2年間を任期とする評議員、予備評議員の一部交代について報告されました。

2. 令和2年度庶務、事業報告について  
 庶務報告として、今年度の定時総会及び第97期生卒業歓迎会については、新型コロナウイルス感染症の影響により卒業生歓迎会は中止して、定時総会を来年2月8日(月)医学部百年記念館で開催することが報告されました。  
 事業報告として、同窓会新聞の発行状況、会員名簿の進捗状況及び同

窓会新聞の縮刷版について報告されました。

3. 令和2年度会計収支中間報告について  
 9月末日現在の会計収支状況について報告されました。

4. 令和3年度以降の会費免除について  
 会則第6条第2項に基づき、昭和40年卒業の第41期生の会員は令和3年度以降の会費が免除となることが報告されました。

5. (その他)  
 (1)医学部100周年記念誌は来年3月に刊

行する予定であることが報告された。  
 (2)医学部創立100周年記念事業について  
 同窓会新聞に掲載されている創立100周年記念事業基金の卒業期別寄附状況と寄附期間は来年3月末日であることが報告されました。

評議員会の冒頭、新任理事のうち久住副会長(60期)から就任挨拶がありました。

## 北海道大学医学部創立100周年記念事業募金へのご協力をお願い

同窓生の皆さまのお力添えにより、昨年は創立100周年記念事業として記念館の落成式及び記念式典を無事に執り行うことができ、本事業は一区切りを迎えましたが、事業の募金期間は2021(令和3)年3月まで続きます。記念事業のもう一つの柱である「北海道大学医学部教育研究基金」の創設のため、より一層のご支援を賜りますよう、記念事業実行委員会一同、重ねてお願い申し上げます。

**「北海道大学医学部教育研究基金」の創設**

- ◆医学部医学科学生・大学院生に対する奨学支援
- ◆留学生に対する奨学支援
- ◆教職員の教育・研究活動支援
- ◆教育研究環境の整備

募金趣意書につきましては、以下の

方法で取得いただけます。

①ウェブサイトからのダウンロード  
 北海道大学医学部創立100周年記念事業ウェブサイトからダウンロードいただけます

②メールまたはお電話によるご請求  
 医学系事務部総務課庶務担当  
 (E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp  
 電話: 011-706-5085)

までご連絡ください。趣意書を郵送にてお送りいたします。

郵便振替・銀行振り込みによるご寄附のお申込みの場合は、同封の医学部創立100周年記念事業基金専用「払込取扱票(振込通知書)」をご利用の上、郵便振替または銀行によりお振り込みください。

また、クレジットカード決済によるご寄附のお申し込みについては、北大フロンティア基金ホームページ「寄附

申し込みフォーム」からお手続きいただけます。

北海道大学医学部創立100周年記念事業実行委員会  
 募金活動小委員会委員長 吉岡 充弘

(問い合わせ先)  
 北海道大学医学系事務部総務課庶務担当  
 TEL/FAX: 011-706-5085/011-717-5286  
 E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp

スマートフォンからの申込みも可能です。QRコードもご利用いただけます。



### 寄附金納入状況

2020年9月30日現在

<b>寄附金合計</b>	<b>525,799,030円</b>	
○教員	270件	48,090,000円
○医学部卒業生	753件	230,331,935円
○病院・企業等	178件	178,405,000円
○その他(講座・同門会等)	9件	21,803,636円
○その他(同期会)	29件	16,748,459円
○その他(個人・団体)	116件	30,420,000円

### 同窓会卒業期別寄附状況

2020年9月30日現在

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
18期	1	0	0%	0	0
19期	1	1	100%	0	100,000
20期	2	0	0%	0	0
21期	2	0	0%	0	0
22期	4	0	0%	0	0
23期	7	1	14%	0	200,000
24期	5	1	20%	0	1,000,000
25期	15	3	20%	1	658,430
26期	6	0	0%	0	0
27期	10	4	40%	0	620,000
28期	19	9	47%	0	2,950,000
29期	21	7	33%	0	1,510,000
30期	36	11	31%	1	3,000,000
31期	21	3	14%	1	945,029
32期	27	6	22%	0	325,000
33期	35	7	20%	0	3,500,000
34期	45	8	18%	0	2,150,000
35期	50	28	56%	0	18,700,000
36期	48	10	21%	0	2,750,000
37期	56	31	55%	0	6,910,000
38期	54	11	20%	0	2,120,000
39期	54	20	37%	0	7,000,000
40期	53	22	42%	0	6,252,000
41期	65	32	49%	1	17,450,000
42期	65	43	66%	1	5,365,000
43期	53	20	38%	0	9,439,583
44期	79	72	91%	1	12,850,000
45期	62	16	26%	0	3,780,000
46期	79	50	63%	23	15,060,000
47期	78	11	14%	0	7,700,000
48期	73	21	29%	0	3,510,000
49期	92	13	14%	0	21,070,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
50期	89	13	15%	0	6,270,000
51期	101	13	13%	0	4,100,000
52期	86	8	9%	0	4,300,000
53期	80	10	13%	0	2,150,000
54期	102	12	12%	0	7,710,000
55期	108	30	28%	0	11,370,000
56期	104	20	19%	0	3,860,000
57期	124	30	24%	0	6,710,000
58期	96	14	15%	0	3,900,000
59期	122	14	11%	0	2,470,000
60期	116	44	38%	0	9,480,000
61期	100	41	41%	0	3,405,000
62期	115	11	10%	0	1,370,000
63期	102	12	12%	0	2,530,000
64期	114	35	31%	0	4,739,352
65期	115	33	29%	0	4,220,000
66期	114	25	22%	0	3,950,000
67期	106	29	27%	0	3,620,000
68期	101	10	10%	0	10,940,000
69期	107	13	12%	0	1,940,000
70期	94	10	11%	0	1,560,000
71期	89	7	8%	0	2,110,000
72期	80	12	15%	0	1,242,000
73期	82	12	15%	0	1,355,000
74期	82	22	27%	0	1,260,000
75期	81	12	15%	0	1,440,000
76期	74	8	11%	0	770,000
77期	67	2	3%	0	250,000
78期	74	13	18%	0	1,650,000
79期	83	9	11%	0	960,000
80期	85	7	8%	0	860,000
81期	63	7	11%	0	1,100,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
82期	64	5	8%	0	610,000
83期	67	8	12%	0	534,000
84期	67	8	12%	0	560,000
85期	65	1	2%	0	50,000
86期	64	1	2%	0	20,000
87期	58	0	0%	0	0
88期	58	1	2%	0	50,000
89期	78	2	3%	0	250,000
90期	66	1	2%	0	20,000
91期	94	0	0%	0	0
92期	82	2	2%	0	110,000
93期	79	1	1%	0	20,000
94期	86	1	1%	0	10,000
会員(2)	168	39	23%	0	13,870,000
専1	0	0	0%	0	0
専2	2	0	0%	0	0
専3	3	0	0%	0	0
専4	1	3	300%	0	120,000
専5	12	7	58%	0	1,120,000
専6日	21	2	10%	0	300,000
専6新	4	0	0%	0	0
専7日	25	1	4%	0	100,000
専7新	15	1	7%	0	1,000,000
樺太	1	0	0%	0	0
計	5,454	1,083	19.9%	29	289,250,394

**〈参考〉**

医学部創立90周年における同窓会からの寄附状況(2010年3月末)

全体数	寄附者数	寄附率
6,272	1,656	26.4%

※2020年9月30日現在とため ※全体数(住所判明者): 故人は除く/海外在住者除く(平成30年度同窓会データより) ※法人(代表者が同窓生)は除く

# 座談会 “新型コロナウイルスの影響で学生生活はどう変わったか”

2020年11月20日 北海道大学医学部百年記念館

主 催：北大医学部同窓会新聞編集委員会

出席者：春日 優介（97期、6年生）、五味川 龍（98期、5年生）、萬代 高子（99期、4年生）、江端 美織（100期、3年生）、  
鍵谷 豪太（101期、2年生）、寺島 祐樹（99期、4年生、司会）、樋田 泰浩（67期、同窓会編集委員）



△座談会は十分な距離と換気のもと行われた

**寺島**：編集委員会で、学生に新型コロナウイルスの影響を話してもらった座談会を行うことになりました。学生は各学年から一人ずつ、座談会のアドバイザーとして北大病院地域医療連携福祉センターの樋田先生に来て頂きました。まずは講義への影響について聞かせていただけますか。

**萬代**：4年生では、前期の座学の講義が全てオンラインになりました。試験ではなくレポートで成績がつくようになった教科もあり、レポートの形式も授業ごとだったりまとめてだったり様々でした。講義を終えたあとに、科目によって理解の度合いが異なってしまった感触です。

**江端**：3年生は、期末試験と実習の一部以外は、4月から基本ずっとオンライン授業でした。もともと座学で行う授業では、朝の負担が減ったり、画面やPDF化された資料が見やすかったり、オンラインだからこそそのメリットがあるなど感じています。勉強という面では、これを機に教育のオンライン化がどんどん進んでいくんじゃないかなという印象を受けました。

**鍵谷**：2年生もオンラインでしたが、1年の教養課程では医学科同期と顔を合わせないので、お互い知らないまま周りの状況が分からずに講義を受けていました。また、僕はiPadなどの電子機器を持っておらず、pdfを印刷して使っていたので印刷代と手間がかかりました。

**春日**：相互形式の授業は、もともと医学部の性質上少ないですが、下の学年ではどうだったのか気になりました。

**五味川**：4・5年の臨床統合講義や地域医療学、2年生の医学英語演習では、zoomのグループ分け機能を使って、テーマを割り振って話していました。もともと対面でも同じ形式でやっていたので、オンラインでも何とか維持したという形です。

**春日**：知識を得るようなインプット型の授業に関してはメリットがあったかのように思われますが、アウトプット型の授業は実際には行われているけれども少なかったり、問題を抱えていたりする感じですかね。

**寺島**：次は、実習ではどのような影響があったのか聞いてみたいです。

**五味川**：今の5年生の病院実習は、途中で止まったり、オンラインに移行したりで、卒業試験ごとどんどん後ろに押された形でした。また現在、札幌市内の学外病院でのコア科実習は止まってしまいました。

**春日**：オンライン実習になったせいで、具体的にこういうのしたかったけどできなかったなというものはありますか。

**五味川**：メジャー科がオンラインになってしまったグループは、手技や診察などを実際に患者さんにどうやってやるのか学べなかったのが歯がゆいところです。逆にマイナー科がオンラインになったグループだと、眼科や耳鼻科などでの特殊な検査を一切見ないで卒業してしまうということに不安を抱えているという話は聞いています。

**樋田**：聞いていて思ったのが実習の空き時間に、スケジュールが公開されて、他の科がやっていることを見ることができたら、経験も増えるし、それなりに楽しいのかなと。

**五味川**：そうですね。見る分には先生が動画をとって見せて頂くだけでもありがたいのですが、どうしてもオンラインだと限界があるので、対面の実習はどこかで欲しいなと思います。4年生はどうでしょう？

**萬代**：オンライン実習だと、その科で働く自分を想像しにくく、各科の雰囲気など肌で感じるものが感じられなくなってしまうというのが、一番大きなデメリットかなと思っています。

**樋田**：それともう一つね、コメディカルの人たち、看護師さんとか他の職種の人たちとの交流や患者さんとの直接の対話というのがなくなってしまっているんじゃないかな。学生さんからの要望であがってくることはそもそも学生さんの中で芽生えていることだけなので、そのことにやっぱり教員が気を配らなければいけないと思いました。

**寺島**：では、課外活動の話に移らせて頂きたいと思います。硬式テニス部はどうでしたか？

**萬代**：今まではどの部活もやりたいたいだけやれるという環境だったのが、今回はやりたい気持ちがあるのに、それができず、みんな辛い思いをしたのかなと思いますね。硬式テニス部だと、目指していた東医体や王座という大会がなくなって、今まで1年間かけて自分たちで作ってきた目標に対する

部活動の姿やあり方が全てなくなってしまったのは、精神的にかなり厳しいものがありました。

**春日**：僕は、新歓しにくかったというのが一番の影響だと思います。今も部活に入れていないという1年生もいますし、入部したけれど、活動が常時と異なるから、この部活を続けて良いのか悩んでいると聞いています。2・3年生以上の部員でも、部活を続けるモチベーションがなくなってしまうという人やそのまま部活を辞める人もいました。

**寺島**：そうですね。文科系の部活は運動部に比べて、オンラインに移行しやすいのかなと思います。実際どうだったのかお聴かせ頂けますか。

**鍵谷**：東洋医学研究会では、以前の様に大学外から先生を呼んで漢方について学ぶということはできなくなってしまったのですが、学生同士の発表はすんなりオンライン化できました。今は先生の講義もオンライン化できないか検討している段階です。

**江端**：IFMSAは、ツイッターやzoomでの新歓を積極的に取り入れていて、逆に今年度は例年より新入生がたくさん入ってくれるという事態が発生しました。様々な所属の新入生が入ってくれてすごく多様性が生まれています。幼稚園や小学校など現地に向く活動ができない代わりに、昼の時間はzoomで集まるという形になり、物理的な壁を乗り越えて、皆が集まってきたというメリットがあるのかなと思っています。

**寺島**：部活について、樋田先生、コメントいただけますか？

**樋田**：情報交換という意味で、オンラインは勝っている面があるので、この状況を逆手にとって、交流に力を入れて欲しいなと思います。今までの活動をどうオンラインで維持するかだけでなく、新しい繋がりをもつチャンスとして活かしてもらえたら良いなと思っています。

**寺島**：では、最後に、プライベートでの変化をお聞かせ願いたいと思います。

**五味川**：僕は実家暮らしなのですが、オンライン講義では、家族がいるところでどうやって見ようか苦労しました。対面の実習ではコロナを家族に持っていかないか不安がありました。また、病院見学を含めた就職活動に関してやはり実地に行くことができず、その場に行かなければ分からない病院の雰囲気などを感じる事ができないので、今でも苦労しています。

**萬代**：私の実家は感染者数がしばらく0だった島根にあるので、帰省するためにはコロナの発症者が多い大都市を経由せざるを得

ず、帰るのには本当に抵抗がありました。うちの祖父母も高齢ということもあって、帰ったときも会えなかったり、会う時も距離を保って声をかける感じで寂しかったですね。

**寺島**：一人暮らしの方は、大学がないと友人と会う機会が減るじゃないですか。そういう時、辛くなかったですか？

**春日**：辛かったです。メンタル面に対する大学からのサポートはほとんどなくて、もう少し学生のメンタル面に関して大学の方で学生に気を遣って欲しかったです。

**江端**：私は、今出てきたようなデメリットがある一方で、実際に行動が制限されて通学時間が減ると、時間が無かったから交流していなかった人々とオンラインで交流できるようになったり、忙しくて今まで考えなかった将来のことや自分自身のことを見つめ直す時間が逆にできたのかなと、ポジティブに捉えようと思っています。

**寺島**：素敵な考え方ですね。ありがとうございます。終わりの時間が迫ってきましたが、最後に何か話したいことありますか？

**春日**：僕は今年卒業しますが、謝恩会もないし、卒業式も一応あることにはなっているけれども、たぶんディスタンスを保つ形式だろうし、無くなる可能性も高いと思うんです。なんかこう一回でも良いから、オンライン上でも良いし、何年後でも良いから、卒業生同士が顔を合わせる場面を作ってもらえると嬉しいかなと。このまま今年の別れだと寂しいかなと思っています。

**寺島**：中止になった医学部同窓会の歓迎会をオンラインでできたらそういう機会になりそうですね。

では最後に樋田先生、コメント頂けますか？

**樋田**：今日はみなさんの考えていることとか、どんな風に頑張ってきたかということを知って、決してネガティブなことばかりではなくて、持っているエネルギーをこういう風に活かしているんだなということが分かって良かったです。ただ最後にできた話で、やっぱり皆の思っていることを汲み上げる仕組みが必要だなと思いました。僕ら教員もそういう仕組みをつくっていくように働きかけたいなと思いました。

**寺島**：ありがとうございます。では皆さん、1時間半という長い時間、お疲れ様でした。



△一人暮らしの辛さを語る春日さん



△実習への影響を語る五味川さん



△部活への影響を語る萬代さん



△コロナの影響をポジティブに捉えたと語る江端さん



△東医研への影響を語る鍵谷さん

# 告知板

## <教授就任挨拶>



山梨大学医学部 泌尿器科学講座 教授

みつ い たかひこ  
三井 貴彦(69期)

2020年4月より山梨大学医学部泌尿器科学講座の教授を拝命致しました。1993年に北海道大学を卒業した後に、横須賀市にあるアメリカ海軍病院でのインターンシップを経て北海道大学泌尿器科学教室に入局しました。泌尿器科研修、大学院を修了した後は、主に北海道大学病院で臨床、研究、教育に従事して参りましたが、2015年より生まれ故郷にある山梨大学に赴任し、現在に至ります。今後も北海道大学で学んだこと基にして、医療、医学の発展に少しでも貢献できたらと考えています。今後ともご指導、ご鞭撻のほどを宜しくお願ひ申し上げます。



愛媛大学医学部 医療情報学講座 教授

きむら えいぜん  
木村 映善(75期)

令和2年5月より愛媛大学医学部医療情報学講座の教授を拝命いたしました。私は平成11年に北大卒業後、石原謙先生が愛媛大学の医療情報学講座の初代教授として講座を開講したときに大学院生として入門しました。以来愛媛大学に長くおりましたが、国立保健医療科学院を経て愛媛大学に出戻った形になります。我が国の医療分野の情報化の道程はまだだと感じております。医学研究・医療を支える医療情報の研究を通して、どこかで先生方にお役に立てるかたちでお返しが出来ればと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



筑波大学医学医療系皮膚科 教授

のむら としむさ  
乃村 俊史 (78期)

私は、忘れもしない大学4年生(1999年)の秋に受けた、のちに私の恩師となる清水宏先生(現:北大皮膚科名誉教授)の授業に感動し、2002年に北大皮膚科に入局しました。爾来、素晴らしい恩師と同期、後輩に恵まれながら、楽しく仕事を続け、このたび、2020年11月1日付で筑波大学医学医療系皮膚科の教授に就任しました。筑波大学では、しっかりと臨床を基軸に、臨床家の視点を存分に活かした研究と教育を行い、教室を発展させる所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

## <学内・院内人事異動>

### <辞職>

2020年10月31日 乃村 俊史(78期) 皮膚科講師(筑波大学医学医療系皮膚科教授)

### <採用>

2020年12月1日 矢部 一郎(67期) 神経内科学教室 教授

# 事務局からお知らせ

## ご寄付のお願い

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。

ご寄付をいただいた場合、ご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感

謝状を贈呈させていただきます。ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。

電話 : 011-706-5007  
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

## 会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報掲載されておりますので、ご不用になった名簿は、例えばシュレッダー処分または焼却処分をお願いいたします。なお、ご自身で処分が困難な方は、宅配便により同窓会事務局へ送ってください。**なお、**

**恐縮ですが送料は各自でご負担願ひ**

**ます。**  
〒060-8638  
札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部百年記念会館  
北海道大学医学部同窓会事務局

## 同窓会費について

### ○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。

同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ○会費納入方法

- ①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかによります。
- ※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

### ○会費未納者と刊行物の送付

- ・未納会費が2年を超える会員には、会

員名簿(同窓会誌)をお送りしません。・会費納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。

### ○会費免除者と刊行物の送付

- ・会則により、卒業後55年を経過した会員の会費は、翌年度から免除とな

ります。・40期生は令和2年度から、41期生は令和3年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費がある会員には、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。

## ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では、会員のための「ドクター総合補償制度」を創設し、**随時募集を行っています。**

現在、本制度には500名近い会員の皆様が加入しており、大変ご好評をいた

だいております。ドクター総合補償制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」「医療・がん保険」「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので個人での契約

に比べて割安な保険料で加入することができます。ドクター総合補償制度につきましては、同窓会事務局にお問い合わせください。

電話 : 011-706-5007  
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

## フラテ107号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の温かいご支援を賜り、昨年春に「フラテ106号」を無事発刊することができました。

さて、我々フラテ編集部では、今年3月発行予定の「フラテ107号」の発行準備を進めております。COVID-19感染拡大に伴い、すべての人の生活様式が大きく変容しました。我々は、この変化を記録する使命があると考え、学生がどのような生活を送ったかを記事にしていまいます。

我々フラテ編集部は、「北大同窓生の茶の間」であるべく、本号もほっと一息ついて頂ける温かい記事を多数ご用意しております。近年は比較

的若い先生方からの購読が減少傾向にあります。もし、この文章で少しでも興味を持って頂いた先生がいらっしゃいましたら、是非ご購読下されば幸甚です。

ご購入をご希望の方は、同封の払込用紙またはQRコードからお支払いをお願い致します。バックナンバーもご用意しております。すでに106号巻末の用紙で申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。



### 107号の主な内容(予定)

- ・COVID-19感染拡大、学生はどう過ごしたか

- ・教室だより、各教室の勉強会、説明会一覧
- ・新任教授インタビュー
- ・みどりのベンチ(医療界で活躍する女性へのインタビュー)
- ・茶苑
- ・学生の広場

### バックナンバーのご案内

バックナンバー(過去号)のご用意もご用意しております。数に限りがございます。在庫切れの場合はご容赦ください。

- ・106号 北大医学部100周年 特集記事
- ・103号 感染対策でご活躍、西浦博 先生 新任教授インタビュー
- ・100号 唾液PCRで話題、豊嶋崇徳 先生 新任教授インタビュー

### フラテ茶苑 寄稿者募集

フラテ茶苑では、卒業後の先生方か

らのご寄稿文を掲載しております。期を問わず、ご自身の専門分野、趣味等をご投稿頂けます。多くの学生が読んでおり、北大出身の先生方の多彩な分野での活躍は学生にとって視野を広げる格好の機会となっております。

様々なバックグラウンドを持つ先生方がフラテ茶苑を通して交流できる、そんなコーナーにしていけたらと思います。今年度も沢山のご寄稿をお待ちしております。

○内容・形式・字数:自由(専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など)

フラテ編集部  
E-mail:frate.med@gmail.com  
〒060-8638  
札幌市北区北15条西7丁目  
北海道大学医学部内

### 新刊書紹介



「ウォームド内視鏡下  
鼻副鼻腔・頭蓋底手術」  
ほん ま あきひろ  
本間明宏(65期)、  
なかまる ゆうじ  
中丸裕爾(66期)監訳、  
すずき まさのぶ  
鈴木正宣(81期)他訳  
医学書院 ¥22,000

近年の経鼻内視鏡手術の進歩には目を見張るものがある。私が入局した頃の犬歯窩切開や外鼻切開を併用した術式とは全く異なるものになり、鼻内内視鏡やナビゲーションを使用した極めて正確かつ安全な術式となり、治癒率や術後QOLも顕著に改善している。本書は、この手術法の進歩に貢献した中心人物、P.J.Wormald氏（アデレード大学耳鼻咽喉科）の世界的ベストセラーの日本語訳である。

氏とは札幌での研究会から10年来の親交があり、原著も改訂の度に読み返していたが、今回この訳を読んでみて翻訳本を読んでいるという違和感がなく、あた

かも氏が直接日本語でこの本を執筆したかのような感覚にとらわれる。翻訳にあたった医局員に聞くと、逐語訳するのではなく、氏の記載を正確に汲み取り咀嚼した上で、日本語として新たに表現することを意識し、氏とも再三にわたる確認作業をこなしていったとのことだ。また訳者が本書で取り扱う世界最先端の術式と局所解剖を著者と同等に正確に理解・経験していた証とも言える。本間教授、中丸准教授、鈴木（正）助教他医局員の臨床力が実を結んだものとも言える好出版である。

本書は鼻副鼻腔を越え、頭蓋底手術も取り扱っている他、その周術期管理についても詳細に記載されている。それゆえ耳鼻咽喉科医はもちろん、脳神経外科医、麻酔科医やメディカルスタッフにもおすすめしたい一冊である。是非ご一読頂きたい。

(52期 福田 諭)

## 北海道医学会からお知らせ

### ○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

### ○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：令和2年は第95巻）
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）
- ※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除い

て今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

### ○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

### ○お問い合わせ先

北海道医学会事務局  
電話：011-706-5007  
E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp

## 同窓会費納入のお願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

## ご逝去者

新聞167号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2009年			8月3日	山平文弘	37
3月13日	神岡蘇二	21	8月10日	笠原嘉郎	専7日
2011年			8月12日	寺西肇	専5
1月20日	土谷茂樹	31	8月20日	森山裕	47
2014年			8月31日	菊池九二三	会員2
11月19日	新谷公章	専6新	9月14日	河西紀夫	41
2018年			9月18日	柴田洋昌	34
6月16日	野田保人	51	9月18日	舟木昭蔵	34
2019年			9月19日	山藤雅弘	専5
4月24日	山田隆之	55	10月1日	花田慶男	30
4月30日	板橋孝一	55	10月14日	佐野文男	37
9月7日	佐藤賢一	57	10月29日	元木澤文昭	34
10月28日	小野輝夫	36	11月1日	古川数男	28
2020年			11月21日	小菅高之	25
1月13日	山東正和	30	11月22日	中根文雄	27
1月16日	石田祐	36	12月3日	森正義	専6日
6月29日	山田功	専2	12月11日	杉原平樹	43

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。  
http://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm

## 過年度会費が2年を超える 会費未納者と会員名簿の発送について

2014年度より、過年度分未納会費が2年を超える会費未納者には、会員名簿および同窓会誌の送付を停止することになっております。

新聞166号および前号にも記載いたしました。過年度会費が2年を超える会員で、本年度の会員名簿の送付を希望される方は、2020年9月30日迄に未納会費の納付をお願いしております。

つきましては、すでに印刷部数確定のため、期日以降に会費を完納されましても、今年度の名簿を発送することは出来ませんので、ご了承ください。

### ●ご注意ください

#### 【令和2年度会員名簿について】

2020年9月30日を納付期限としております。

たとえ年度以内(2021年3月31日まで)に未納額を納付いただきましたが、当年度発行の名簿をお届けすることはできません。

#### 【過年度分の名簿および会誌について】

後日、滞納分を納付されましても、個別発送はいたしません。

## 令和2年度同窓会会員名簿について

166号および前号でお知らせいたしました通り、「会員登録情報変更届」は、令和2年10月5日(月)事務局必着分を持ちまして締切とさせていただきます。

なお、期日以降の届出につきましては、可能な限り対応いたしました。届出をしたにもかかわらず変更されていない場合は、印刷に支障をきたすため、間に合わなかった可能性がございます。申し訳ございませんが、ご了承ください。よろしくお願いいたします。

## 総会、卒業生歓迎会のご案内

### 同窓会総会

令和2年度定時総会を下記により開催しますので、ご出席くださるようご案内いたします。  
日時：令和3年2月8日(月)  
午後6時より  
会場：北海道大学医学部百年記念館(1階)大会議室  
所在地：札幌市北区北15条西7丁目(北大構内)

### 議事

1. 協議事項(予定)
    - (1)令和元年度会計収支決算
    - (2)令和元年度会計監査
    - (3)その他
  2. 報告事項(予定)
    - (1)庶務・事業報告
    - (2)令和2年度会計収支中間報告
    - (3)その他
- 総会終了後、令和2年度フラテ研究奨励賞授賞式を予定しています。  
**卒業生歓迎会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止いたします。**

## 同窓会費の納入は口座振替で

同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込④口座振替のいずれかです。

**特に口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。**

口座振替を希望する方は、事務局にお申し付けください。手続きに必要な「預金口座振替依頼書」をお送りします。ホームページからもダウンロード出来ます。必要事項を記入の上同窓会事務局へ送ってください。

電話：011-706-5007 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp

## 一面の写真説明

### 「光」は「北」から 「北」から「世界」へ

田中伸哉(66期)

寶金清博先生、総長御就任おめでとうございます。同窓会新聞の1面の写真は、通常は会員が撮影したものを掲

載していますが、今回は特例として、就任日に北大のホームページにアップロードされた、総長からのメッセージが込められた写真を掲載いたしました。寶金総長の下一丸となって北大の研究・教育・診療の更なる発展を目指します。同窓会会員の皆様の多大なご支援をお願い申し上げます。

## 編集後記

コロナ禍のなか北海道大学の役割を考えさせられる昨今です。豊嶋先生らによる唾液PCRの研究をはじめ、新型コロナウイルスの臨床や研究に同窓会員の皆様が貢献されていることが本紙や報道で紹介されています。浅香先生、

寶金先生、吉岡先生、秋田先生という素晴らしいリーダーに恵まれた私たちが、北海道民の期待にしっかりと答えて「北大のおかげ」と言われる存在であり続けたいと思います。  
(67期 樋田泰浩)

印刷所 **大日本印刷(株)** 〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号  
代表(011)750-2205